

## 「アフターコロナにおける生活体験を考える」

日本生活体験学習学会  
学 会 長 古賀 倫嗣  
副 会 長 上野 景三  
宮嶋 晴子  
事務局長 永田 誠

日本生活体験学習学会は、1999年9月に子どもの生活体験事業に携わる実践者と研究者が協働し設立しました。それから学会設立から20年を超え、本学会は一貫して、子どもの「生きる力」を育むための生活体験に関する研究・実践を蓄積してきました。それらの蓄積は、乳幼児期から青年期の育ち、そして、子育てや子ども体験活動を支援する大人の役割まで幅広いテーマがありますが、それらに共通するキーワードが「生活」と「体験」であり、その基盤としての「子どもの生活の現実（いま）」を的確に、そしてタイムリーに把握することが重要です。

今回の新型コロナウイルス感染拡大を受け、感染防止策の一環として外出自粛の日々が今後も続くことが懸念されます。加えて、「新しい生活様式<sup>1</sup>」が公表され、感染防止にとどまらず、子ども・おとなに関わらず、日常生活場面における行動変容や働き方の変化が求められました。こうした状況下で、子どももおとなもウイルス感染の不安と外に出られないストレスを抱えながら生活することによって、人同士や自然・社会とのかかわりが希薄になり、本来、人間が生活する上で、そして子どもが成長する過程で不可欠な「経験」そのものさえも失われてしまうことが危惧されます。

しかし、こうした事態に対して、これまで通りの生活に戻ることは難しいでしょう。加えて、こうした事態そのものが予測されていなかった中で、誰も今後の生活の姿を描くことが難しいのも事実です。

そこで、日本生活体験学習学会では、「アフターコロナにおける生活体験を考える」と銘打ち、学会に所属する実践者・研究者がこのコロナ禍をいかに乗り越え、どのような将来の展望を描き出そうとしているか、そして、その「知」を発信し、少しでも子どもの遊びや子育てにおける一助となることを願って、この学会員によるリレートークを企画しました。

このリレートークは、あくまでも学会員の実践・研究上の現時点を報告いただいたものであり、必ずしも今後の「生活」におけるモデルを示したものではありません。大切なことは、このコロナ禍の中で、何が起こっているかを正しく把握するとともに、試行錯誤しながら「生活」や「体験」の方向性を、関心持つ皆さんと一緒に考え、つくりだしていく「協働のプロセス」です。

ぜひ学会員の皆さんの積極的な情報提供をお待ちしています。

---

<sup>1</sup> 2020年5月4日に、政府は新型コロナウイルス感染症専門家会議からの提言を踏まえ、新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」を公表した。「新しい生活様式」の実践例として、（1）一人ひとりの基本的感染対策、（2）日常生活を営む上での基本的様式、（3）日常生活の各場面別様式、（4）働き方の新しいスタイルが示された。厚生労働省HP「新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」を公表しました」

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431\\_newlifestyle.html#newlifestyle](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html#newlifestyle)  
(閲覧日：2020年6月15日)